

2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 <概評> ・修学支援では、学部・学科単位で留年・休学・退学者への対処や補習・補充教育が行われているが、学生の能力に応じた補習・補充教育の整備を期待したい。 ・出席不良者・成績不良者の早期把握や個別面談、補習・補充教育のほかに、オフィスアワー、進級不可者への指導等の取組みが行われているが、その効果の検証が必要である。
2016 年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題 （2016 年度点検・評価シート IV 次年度への課題 より転記） 6-2【現状】成績不振学生への個別指導内容については、個人面談の記録を取っているものでそれについてまとめ、学科会議等で報告し、教員間で情報共有することによって、ケースに応じた個別指導の方法について検討する。

Ⅰ 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学部
評価基準 6	学生支援
点検・評価項目(2)	6-2 学生への修学支援は適切に行われているか。
評価の視点	留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性
	補習・補充教育に関する支援体制とその実施

Ⅱ 点検・評価 対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

6-2	<留年者および休・退学者の状況と対処法> 留年者に対しては、年度末から新学期開始時にかけて、学部教務事務室と連携して、学科主任および学年担任が当該学生との面談を行っている。同時に、学生が所属するゼミ担当教員が卒業に向けての単位取得の指導、生活面での啓発を行っている。休学ならびに退学者に対しては、上記と同様の対処により、休学・退学者を減らす方策を講じている。両学科とも、2015 年 4 月に学科の「成績不振学生の個別指導体制」を策定し、それに基づいて成績不振学生への指導にあたっている（B6-39 d2-表 36、37、38）。 2016 年度の留年者および休・退学者については、スポーツ科学科：留年者 1 名（0.21%）、休学者 2 名（0.41%）、退学者 6 名（1.20%）、健康科学科：留年者 7 名（1.61%）、休学者 2 名（0.46%）、退学者 5 名（1.20%）となっている。また、今年度の 5 月 1 日時点までの状況は、スポーツ科学科：休学者 1 名、退学者 1 名、健康科学科：休学者 0 名、退学者 0 名となっている。 <補習・補充教育に関する支援体制とその実施> オフィスアワーは全教員が実施している。シラバスにオフィスアワーの時間や連絡先を明記する、また各研究室のドアに掲示するなどの方法によって、学生に周知している（A6-1、B6-31）。 年度末から新学期開始時において、学科主任および学科教務委員会と教務事務室とが連携して成績不振学生のリストを作成し、それらの学生に対して各学年担任を中心として個人面談を行い、修学についての問題点に確認・相談および単位習得に向けての諸指導を行っている。 健康科学科では、リメディアル教育の一環として、高大連携により、提携高校教師による理系科目（化学と生物）の学内授業を実施している。スポーツ科学科では、1 年次のフレッシュマンセミナーにおいて大学で学ぶための心得や基礎知識、学習に必要な基礎技能について扱っており、2 年次のスポーツキャリアセミナーにおいて基礎学力や一般教養を補うための教材を用いた内容を扱っている。 さらに、スポーツ科学科では、2017 年度に予定しているカリキュラム改正において、1 年生を対象としたリメディアル教育を目的とする授業開講の準備を進めている。このほか、教員採用試験（スポーツ科学科）、臨床検査技師（健康科学科）等の試験対策支援として、夏期休業等を利用した学内外の教員による補講を行っている。
6-2	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 （１）留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性【×】 具体的事例： （２）補習・補充教育に関する支援体制とその実施について【○】 具体的事例：スポーツ科学科では、当初、教職課程センターの開設に伴い、「課外活動として実施している教員採用試験対策

	勉強会」に対する教員による支援が困難になると懸念されたが、従来の勉強会の内容は、教職課程センターのプログラムとして展開されており、学生がそれらを履修可能となっているので、引き続き学習支援環境は維持されている。本年度からの新カリキュラムにより、1年生を対象としたリメディアル教育を目的とした「スポーツ基礎教養」が開講される。 健康科学科では、入学前課題として、2016年入学の推薦入試入学者（すべての推薦入試合格学生）に対して、数学、英語の学習教材を使った学習課題を課し、その達成度を入学直後に評価する試験を実施した。2016年度推薦入試学生に対しては、学外の教材販売会社との共同で入学前課題、入学後試験の判定など実施した。
--	---

【効果が上がっている事項】

6-2	
-----	--

【改善すべき事項】

6-2	教職課程センター開設に伴い、スポーツ科学科の課外活動として行ってきた教員採用試験対策勉強会の担当教員が、センターの業務担当をすることになり、支援が困難となり、従来の学科の勉強会の具体的な運用について検討が必要である。
-----	--

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～2018)	6-2 留年者および休・退学者の状況把握と対処を適切に行い、その割合を2%台に抑える。	前年比で留年者および休・退学者数を減らす。	→			B	S	
16年度目標	6-2 教員採用試験対策として学科教員で実施してきた課外での勉強会について、教職課程センターと連携しながら継続する。	勉強会実施状況の学部教授会での報告				A		
17年度目標	6-2 スポーツ科学科では、リメディアル教育を目的として今年度より開講している「スポーツ基礎教養」について、学生による授業評価を通じて、当該授業の当初の目的の達成度を検証し、次年度の授業運営に活かす。 6-2 健康科学科では、苦手科目克服のための補習授業等の導入・実施を検討する。 6-2 成績不振学生への個別指導内容については、面談内容について学科協議会を通じて教員間で共有することにより、個々の指導方法を検討する。	授業評価アンケート結果 本導入・実施案に関する教授会承認 教授会での報告				S	S	S

Ⅳ 評価専門委員会所見

6-2 【現状】【改善】【目標】休学者留年者退学者に対して目標をたてて支援している様子は、評価できます。健康学科は3年前に比較して退学者数が減少している事は、評価できます。背景に、補習・補充教育に特化した授業が設置されていること、面接等を通じた丁寧な修学支援指導がされていることがあると思います。 6-2 【目標】【改善】教職課程センターに教員採用試験支援業務が移ったとしても、大学全体としての支援は継続しているのであるから、大学全体の支援との提携や、単独の教員に頼るのではない大学と学科の組織的な支援のあり方を模索されると良いと思います。
--

Ⅴ 所見への対応

6-2 【目標】【改善】コメントに言及されている「大学全体の支援との提携や、単独の教員に頼るのではない大学と学科の組織的な支援のあり方」に関する学習支援については、今年度の実施実態を含めて必要に応じて検討していく所存です。

Ⅵ 次年度への課題

--

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A6-1 大東文化大学・大学院シラバス（CD-R）

大東文化大学ホームページ（Web シラバス）

<http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html> 《既出》A4-2-16

B6-31 健康科学科教員オフィスアワー一覧

〔追加資料〕